

2014年3月期 第3四半期決算説明会

ウシオ電機株式会社

2014年1月31日

＜免責事項＞本資料で記述されている将来の当社業績に関する見通しは、現時点で入手可能な情報を基に当社が判断した予想です。従いまして、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

*本資料の記載は、切捨てによる億円単位で表記しております。

USHIO

Lighting—Edge Technologies



Thank you
50th Anniversary

- I. **第3四半期業績概況**
- II. 通期業績見通し
- III. 参考資料

今回の決算発表のポイント

第3四半期累計期間の業績は、連結売上高が前年同期比7.7%増収の1,138億円
連結営業利益は同56.7%増益の84億円となり増収増益決算。

➤ 背景となる分野別市況

エレクトロニクス分野について：

スマートフォンやタブレット端末関連メーカーを中心にFPD、半導体、電子部品製造関連の設備稼働率は概ね高水準を維持。日本国内の中小型に続き中国でも液晶パネル製造用設備投資が本格化。一方、電子部品市場の設備投資のうちPCパッケージング関連などは依然低水準。

映像画像分野について：

シネマ関連では、シアター側のフィルム供給停止への懸念と小型DCPの導入によりデジタル化は想定より前倒しで進行中。シネマ以外で使用される一般映像用プロジェクタの需要も、引き続き拡大中。

➤ セグメント別業況のポイント

装置事業：

光学装置は、第2四半期以降、光配向装置などFPD市場向け装置販売が拡大したものの、PC需要の低迷などにより電子部品関連の装置販売は低調。および光学装置の検収は例年通り期末に集中しているため、YoY、QoQともに減収。

映像装置は、為替影響に加えDCPの販売台数が前期並みを維持し、一般映像用プロジェクタの販売が順調に推移したことにより、YoY、QoQともに増収。

光源事業：

UVランプは、高水準な稼働率を反映し堅調に推移。当四半期のシネマプロジェクタ用クセノンランプの売上は過去最高を更新し好調。放電ランプ全体ではYoY、QoQともに増収。

ハロゲンランプはOA関連を中心に底堅く推移し YoY で増収。

研究開発費はEUV事業を日本へ集約したこともありYoYで減少。

なお、通期の連結業績予想については変更なし。

業績サマリー

(億円)	FY12	FY13	YoY		FY12	FY13	YoY	
	3Q累計	3Q累計	増減	%	3Q	3Q	増減	%
売上高	1,057	1,138	+81	+7.7	344	381	+36	+10.6
営業利益	54	84	+30	+56.7	15	26	+12	+67.3
営業利益率 (%)	5.1	7.4	+2.3P	-	4.6	6.9	+2.3P	-
経常利益	63	121	+58	+93.2	31	44	+13	+42.5
当期利益	30	92	+61	+199.2	17	40	+22	+128.3
EPS (円)	23.49	70.28			13.55	30.94		
為替レート (円)								
USD	80	100			83	102		
EUR	103	133			108	140		

為替による通期の影響額 (億円)	売上高	営業利益	経常利益
USD	11	2	2

業績サマリー 《四半期比較》

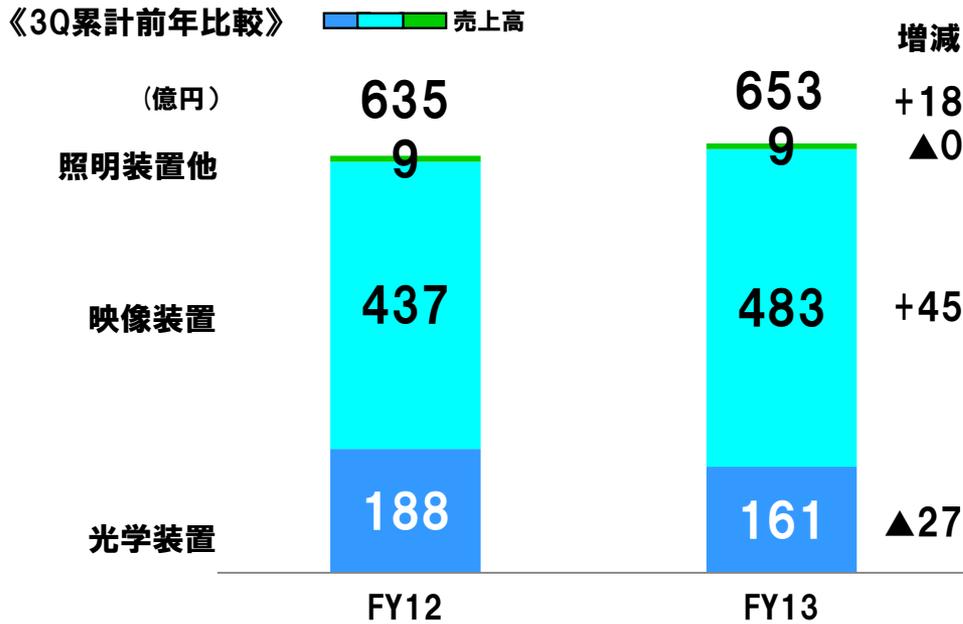
(億円)	1Q	2Q	3Q	QoQ	
				増減	%
売上高	354	402	381	▲21	▲5.4
営業利益	22	35	26	▲9	▲26.1
営業利益率 (%)	6.4	8.8	6.9	▲1.9P	-
経常利益	34	42	44	+1	+3.9
当期利益	30	21	40	+19	+92.7
EPS (円)	23.28	16.06	30.94		
為替レート (円)					
USD	99	98	102		
EUR	130	131	140		

セグメント別 売上高、営業利益、営業利益率

(億円)		FY12	FY13	YoY		FY12	FY13	YoY	
セグメント		3Q累計	3Q累計	増減	%	3Q	3Q	増減	%
装置事業	売上高	635	653	+18	+2.8	203	212	+9	+4.4
	営業利益	8	27	+18	+219.5	3	6	+3	+80.6
	営業利益率 (%)	1.3	4.2	+2.8P	-	1.8	3.2	+1.3P	-
光源事業	売上高	397	466	+68	+17.2	133	162	+29	+21.8
	営業利益	42	55	+13	+31.3	10	18	+8	+86.8
	営業利益率 (%)	10.7	12.0	+1.3P	-	7.6	11.7	+4.1P	-
その他	売上高	24	18	▲5	▲22.1	7	6	▲1	▲19.6
	営業利益	0	0	▲0	▲28.1	0	0	▲0	▲41.8
	営業利益率 (%)	3.5	3.3	▲0.3P	-	3.9	2.8	▲1.1P	-

注：売上高は外部顧客への売上高を記載、営業利益率は外部顧客売上高に対する営業利益率

装置事業セグメント概況



◆映像装置：

為替影響に加え、新興国向け小型DCPと一般映像用プロジェクタの販売が順調であったため、YoY、QoQいずれも増収。

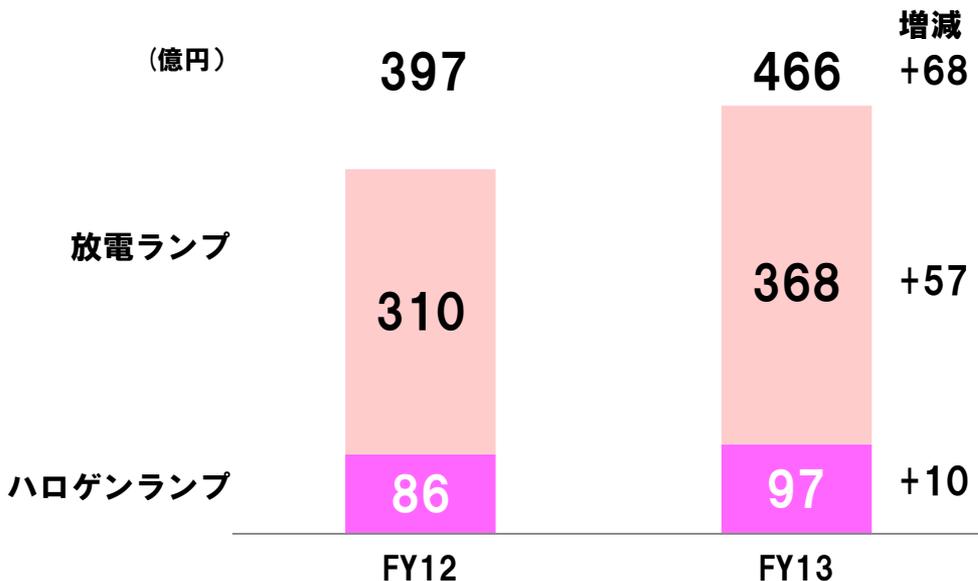
◆光学装置：

2Q以降、光配向装置などのFPD関連装置の販売が拡大したものの、電子部品関係の設備投資は低調に推移。また下期案件の検収が相当数、4Qに集中していることからYoY、QoQいずれも減収。

《3Q累計前年同期比較》 (億円)		FY12 3Q累計	FY13 3Q累計	YoY	《3Q直前四半期比較》 (億円)		2Q	3Q	QoQ
売上高	映像装置	437	483	+45	売上高	映像装置	162	171	+9
	光学装置	188	161	▲27		光学装置	73	37	▲35
	照明装置他	9	9	▲0		照明装置他	4	3	▲1
合計		635	653	+18	合計		240	212	▲27

光源事業セグメント概況

《3Q累計前年比較》 売上高



◆ 放電ランプ：

YoY、QoQ共に増収。シネマ用クセノンランプが過去最高売上を更新。UVランプは、ユーザの稼働率が高水準を維持しており堅調。

◆ ハロゲンランプ：

OA関連ではセットメーカーでの在庫調整が終了したことなどからYoYで増収。

《3Q累計前年同期比較》 (億円)	FY12	FY13	YoY	《3Q直前四半期比較》 (億円)	2Q	3Q	QoQ
	3Q累計	3Q累計			売上高	売上高	
売上高 放電ランプ	310	368	+57	売上高 放電ランプ	120	130	+9
ハロゲンランプ	86	97	+10	ハロゲンランプ	33	32	▲1
合計	397	466	+68	合計	154	162	+8

注：売上高は、外部顧客への売上高を記載

- I. 第3四半期業績概況
- II. 通期業績見通し
- III. 参考資料

通期業績の見通し

(億円)	通期計画	3Q累計	進捗率 (%)
売上高	1,600	1,138	71.2
営業利益	125	84	67.8
営業利益率 (%)	7.8	7.4	-
経常利益	145	121	84.1
当期利益	100	92	92.2
EPS (円)	76.26	70.28	-
ROE (%)	5.6	-	-
配当 (円)	22	-	-
配当性向 (%)	28.8	-	-
為替レート (円)			
USD	97	100	
EUR	128	133	

サブセグメント別 中期ビジョン初年度予想値比較《売上高》



(億円)		中期ビジョン 初年度予想値	3Q累計	進捗率 (%)	通期見通し (中期ビジョン初年度予想値比較)
装置事業	映像装置	589	483	82.0	DCPの出荷台数は期初予想を上回り前期並み。売上高は為替を反映し予想値を上振れる見込み。
	光学装置	370	161	43.6	4Qに販売・検収が集中も、予想値には未達。
	照明装置他	17	9	57.1	4Qで微増も予想値には未達。
小計		976	653	67.0	
光源事業	放電ランプ	441	368	83.5	引き続き好調なシネマ用クセノンランプが牽引し、予想値を大幅に上振れる見込み。
	ハロゲンランプ	136	97	71.8	OAを中心に順調に推移も、計画値に若干届かず。
	小計	577	466	80.8	
その他	産業機械・その他	47	18	40.4	スマホ関係の検査装置等が増加傾向も計画値には未達。
合計		1,600	1,138	71.2	予想値に対しほぼインラインで着地の見込み。

通期の見通し

▶ 装置事業

映像装置分野：

DCPの販売は、新興国での小型機「Solaria」シリーズの出荷が順調に推移し、年間の出荷台数は前期並みの見込み。「Solaria」シリーズは低価格モデルではあるものの、為替影響もあり売上高も上振れの見込み。また、一般映像の受注も着実に増加していることから、映像装置分野全体では期初予想値を上回る見込み。

光学装置分野：

光配向装置など液晶パネル製造関連の光学装置及び露光装置UXシリーズは、案件の相当数の検収が期末に集中するため、4Qでは販売が拡大の見込みも、電子部品関連の投資が期初予想を下回り、通期予想値には未達の見込み。

▶ 光源事業

放電ランプ：

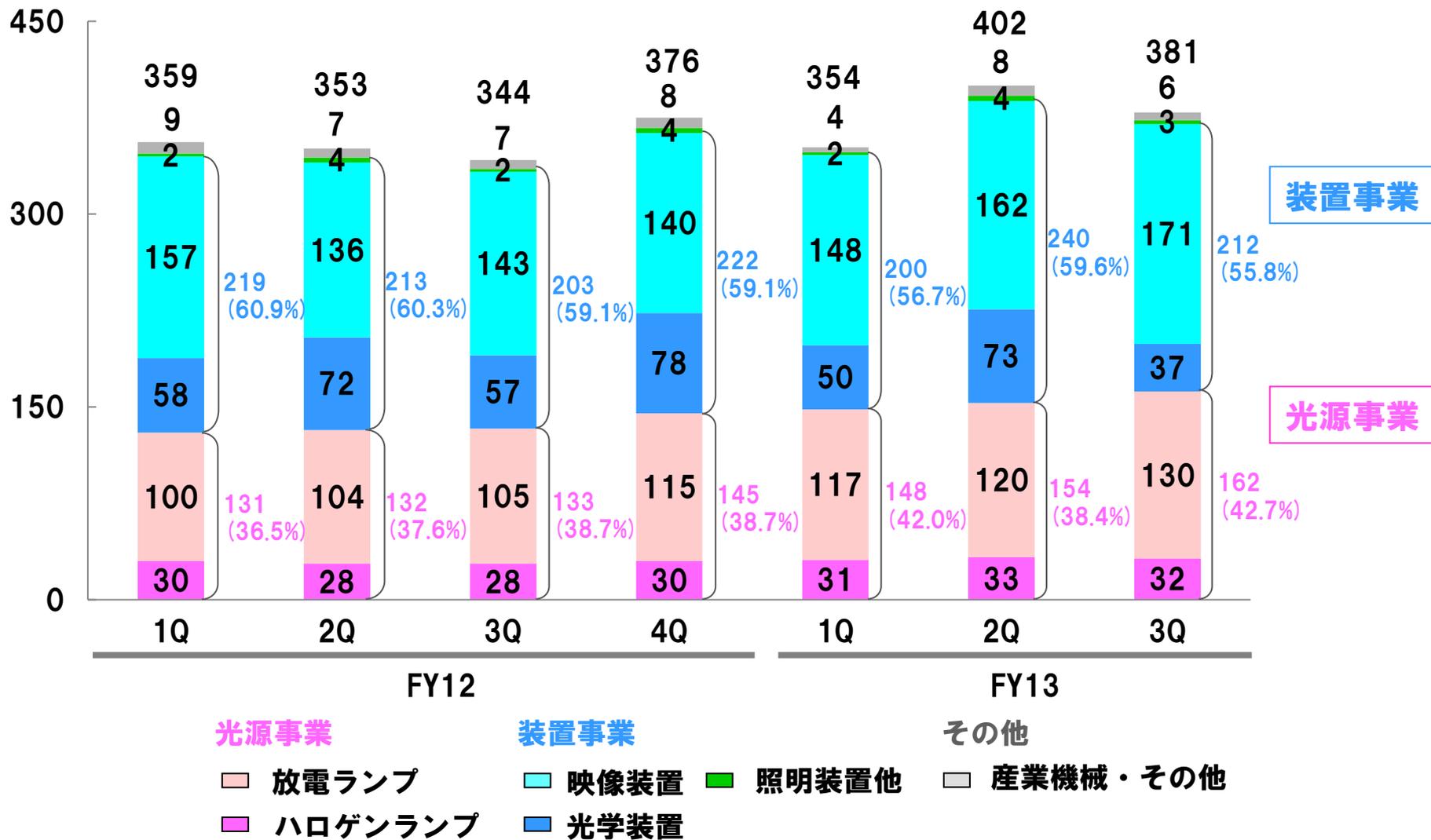
シネマ用クセノンランプは高信頼性を背景にシェアを維持拡大し、通期ベースでも過去最高となる見込み。また、露光用UVランプは、長寿命品の使用が拡大しつつあるものの、スマートフォンやタブレット端末関連メーカーを中心に設備稼働率は高水準を維持しており、堅調に推移する見込み。

ハロゲンランプ：

OA用ハロゲンランプは、高シェアを背景に、堅調に推移の見込み。

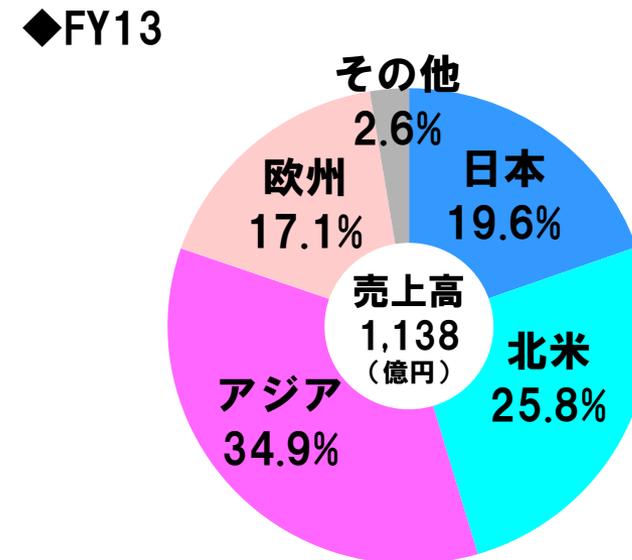
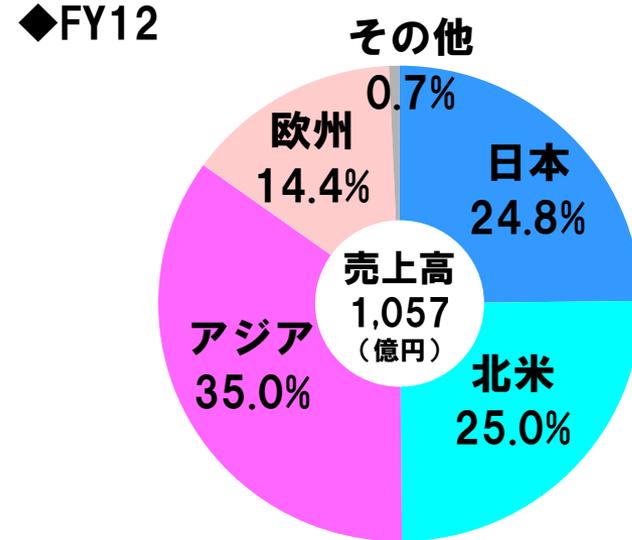
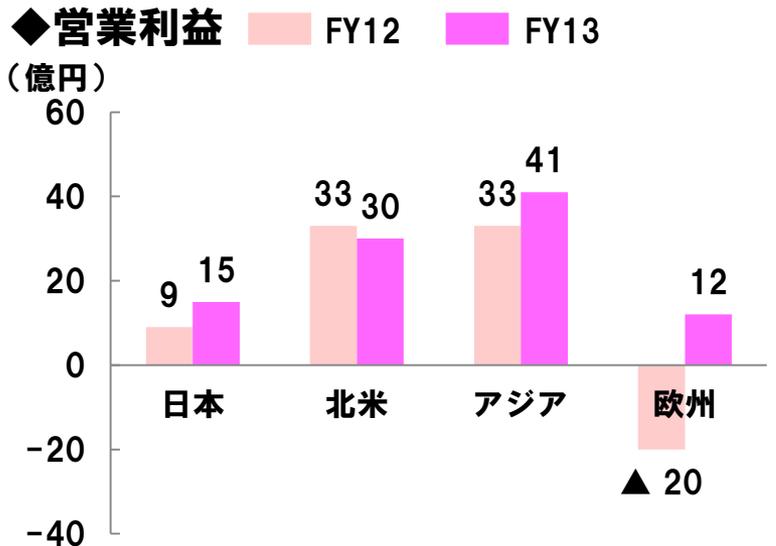
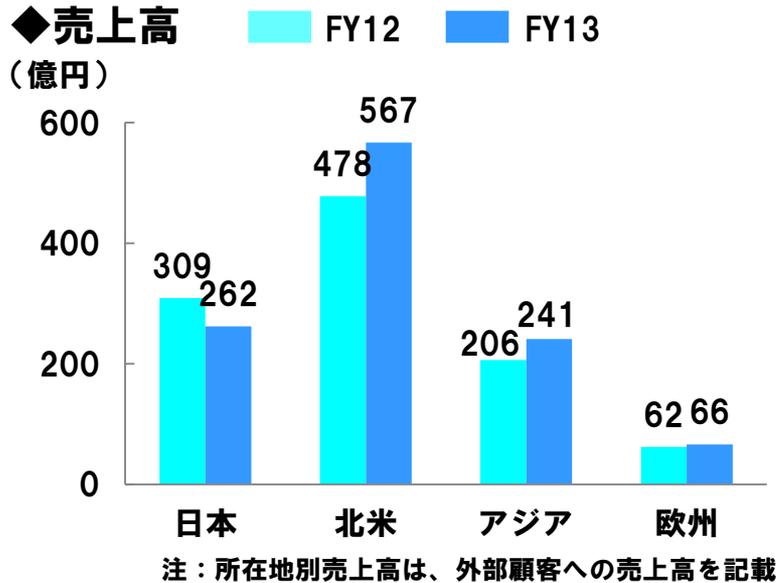
- I. 第3四半期業績概況
- II. 通期業績見通し
- III. **参考資料**

サブセグメント別売上高



所在地別損益 《3Q累計》

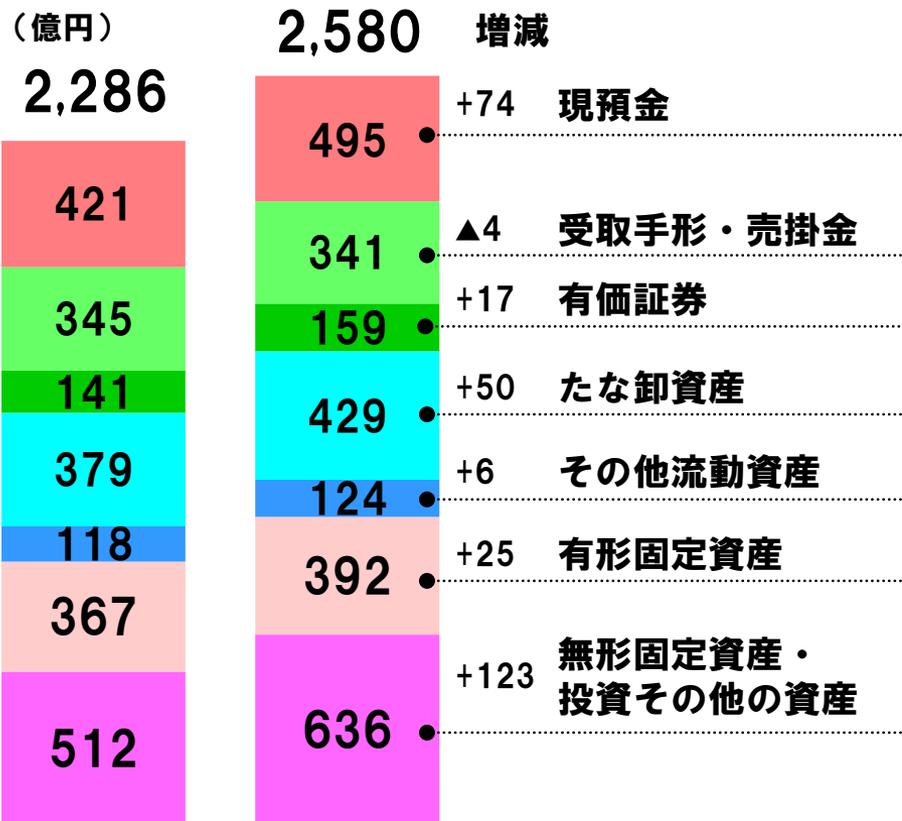
海外売上高比率 《3Q累計》



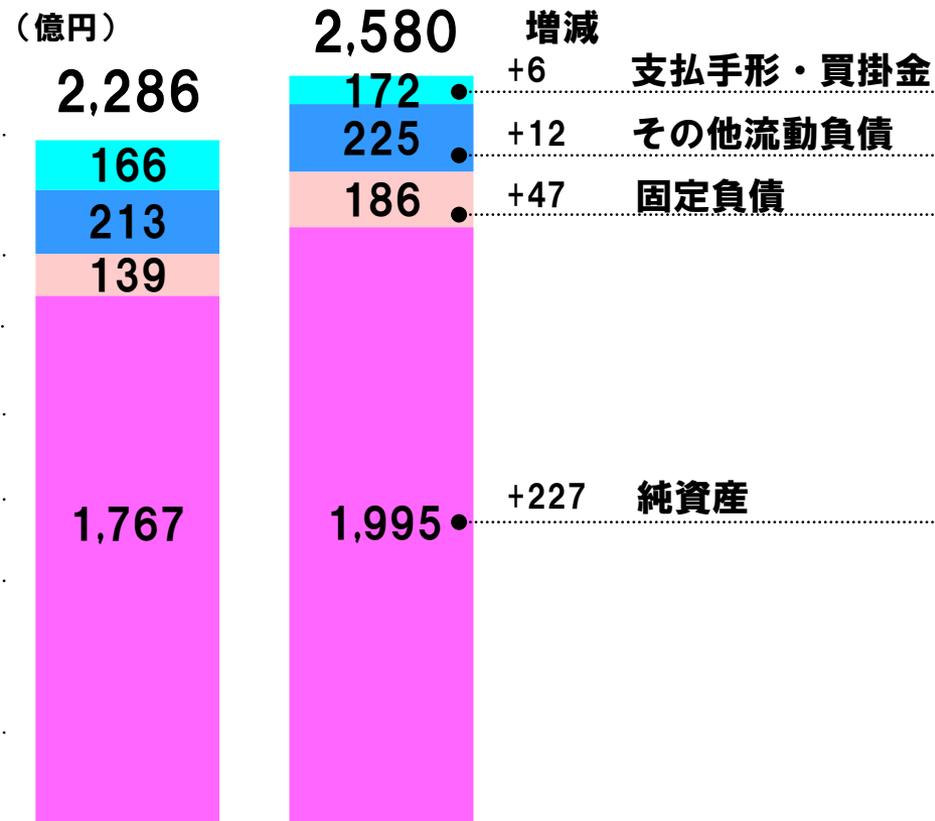
営業外収支《3Q累計》

(億円)	FY12	FY13	YoY
営業外収益	15	39	+24
受取利息	2	4	+1
受取配当金	8	8	+0
為替差益	-	14	+14
売買目的有価証券運用益	0	3	+2
その他	3	6	+3
営業外費用	6	2	▲3
支払利息	1	1	+0
その他	4	1	▲3
営業外収支	9	37	+28

◆資産



◆負債・純資産



●回転月数(ヶ月)

2013/3 2013/12

売上債権	3.0	2.7
たな卸資産	3.3	3.2

●自己資本比率(%)

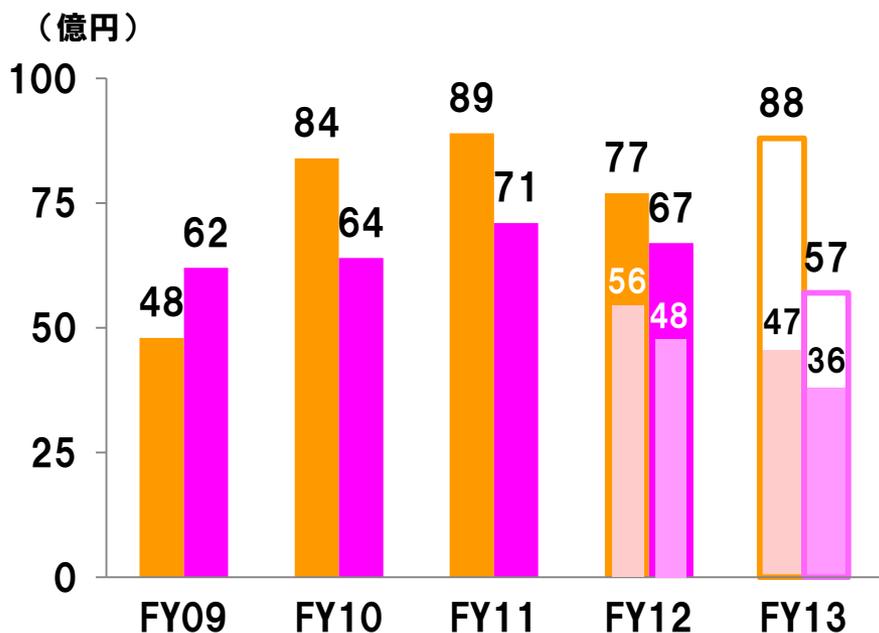
2013/3 2013/12

75.9	76.0
------	------

設備投資額・減価償却費・研究開発費

◆設備投資額・減価償却費

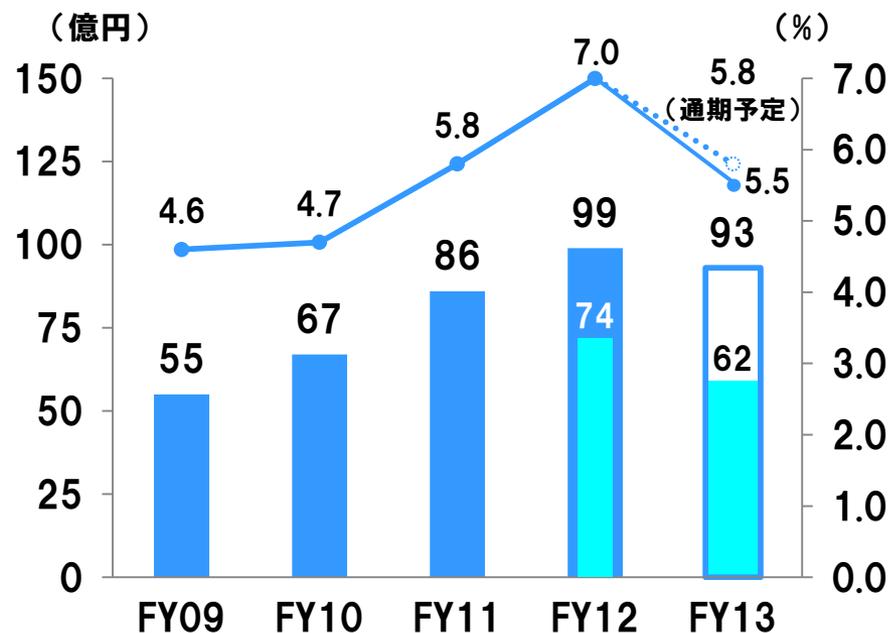
■ 設備投資額 ■ 減価償却費



	1Q	2Q	3Q
設備投資額	14	11	21
減価償却費	11	12	12

◆研究開発費

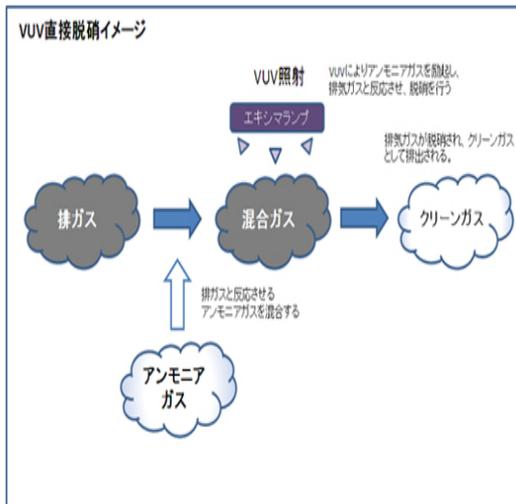
■ 研究開発費 ● 売上高研究開発費率 (%)



	1Q	2Q	3Q
研究開発費	17	20	24

主なプレスリリース

VUV直接脱硝技術を開発 (2013年10月29日発表)



NOx、アンモニア、酸素が共存する排気ガスに直接VUVを照射するため触媒が不要かつ、常温での脱硝や低温排出ガスの脱硝も可能

「TheraBeam® Super Osseo」 を欧州で販売開始 (2013年11月15日発表)



チタン製歯科用インプラントの表面を紫外線照射によって親水化させ、当該インプラントと骨との接合能力を改善し、治療期間の短縮が期待できる

ジョージア工科大学 2.5Dコンソーシアムに参加 (2013年12月2日発表)



ジョージア工科大学3Dシステムズ・パッケージング・リサーチセンター主催のインターポザ開発コンソーシアムに参加。開発用露光装置を設置

USHIO

本資料に関するお問い合わせ先
ウシオ電機（株）広報IR室 （03）3242-1836
contact@ushio.co.jp
<http://www.ushio.co.jp/jp/>